

いわみざわの民話

第20回

恋沼物語②

1年が過ぎ、2年目の冬がやってきたある日、長男は村人と共に狩りに行くことになった。お嫁さんはそんなあぶないことはしない方がよいと引きとめたが村人と大勢で行くのであぶなくないといつて出掛けて行ったところ、なだれにあつて亡くなつたと知らせがあつたきりついに帰つてはこなかつた。お嫁さんは悲しんで何日も何日も泣き続けていた。それからお嫁さんはだんだん無口になり、亡くなつた夫のことばかり想っていた。ある日、お嫁さんはいつものように中の沼に洗濯に行った。棧橋から手を出して、きれいな沼の水で亡くなつた夫の着物などを洗っていると急に日がかげつてきて、水面になつかしい夫の姿がうつつてくるではないか。お嫁さんは喜んで水に



うつつた夫にすがりつくように水の中に入つていった。その後には小さな波がただよつただけであつた。夕方になつて家の人がお嫁さんの姿が見えないのであちこちと捜したが、ついにその姿もなにも残つてはいなかつた。しかし毎年お嫁さんのいなくなつた頃になると中の沼に楽しそうな2人の姿が見えることがあつた。そしてその後は中の沼にだけ鯉がたくさんすむようになり、1匹の鯉を釣ると同じ場所

いわみざわの民話は、平成9年に「いわみざわの民話」刊行委員会が発行しました。

から必ずもう1匹の鯉が釣れるようになった。

しかし、どうしてもそれ以上はその場所では釣れることがなかつた。釣人達はいつからかしらこの中の沼を恋沼と呼ぶようになった。何年か過ぎて沼のそばにあつた家も人もよそに移り沼だけが残り、中の沼はよい釣場となつたがもうその時は恋沼から鯉沼と文字が變つてしまつていた。

今も上幌向東12号の北の方に小さな沼がやはり同じように3つならんでおり、鏡沼・鯉沼・鮒沼と呼ばれている。きつとこの物語の鏡沼、鯉沼、鮒沼がこの沼であるかも知れないとこの物語を語ってくれた老人が小さな声でつぶやいていた。

《完》

第21回は「キツネの丸太物語」を紹介します。

発行・編集 岩見沢市総務部秘書課

ひとの動き 平成23年9月31日現在

●住民基本台帳 人 □ 総数 89,585 人(前月比 - 61)
男 42,017 人(前月比 - 40)
女 47,568 人(前月比 - 21)
世帯数 42,448 世帯(前月比 - 19)

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
☎ 0126-23-4111 ㊚ 0126-23-9977
ホームページ <http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>
▶ 救急当番医ガイド ☎ 0126-23-5153
▶ 消防テレホンガイド ☎ 0126-24-0119